

## ■参加者さんの、ぼうかん■



下着は汗を残しにくい化繊か、静電気体質の方は化繊混紡のものを着よう。透湿速乾素材のアンダーが役に立つのは夏だけではないのだ。ただし、動きまわる時のことも考えると冷え性でなければ発熱するようなタイプのものではないほうが良い。腰やお腹が露出しないよう裾の長いものを選ぶのがコツだ。きちんとしたアンダーウェアを着ておけば、むやみに厚着する必要はない。

同様に足首は露出していると身体が冷え、また疲れやすくなる部分なので靴下も厚め、長めのものを。

女性陣はスカートでなくともストッキングやタイツの着用を、男性陣でもズボンの下に膝下丈ほどのロングアンダーを着用すると驚くほど防寒効果が高いので長時間待機上等の諸兄には絶対にオススメだ。



とにかく待機列に並ぼうと考えているならカイロは必須。1つを腰に貼っておけば各段に温かくなる。逆に手に持っていても体は温まらないので、冷え症の人は複数個用意していこう。ただしカイロは特にトイレの際に落としやすいので要注意。水洗式のトイレでは便器の中に落としたり、自己責任で必ず拾うこと。詰まって大惨事になるので間違ってもそのまま流さないこと。



上着はあくまで防風性能を最優先に考えよう。冷たい風によって体温が奪われることを防げれば気温そのものはそこまで極端に低くはない。それこそスキーウェアのような完全防寒よりも、むしろ軽いことと、状況に応じて脱いだり畳んでしまったり、腕まくりをしたりといった調整がしやすいものが望ましい。

薄手の防風・防水のシェルの中に保温性はあるが風を通しやすいセーター類やフリースなどの保温層を重ね着すると、待機中は着て保温性を高めつつ、活動中は脱いで風通しを良くして汗をうまく逃がせる。

不精せずにこまめに脱いだり着たりするのが大切だ。化繊系の重ね着は大量の静電気を発生させる場合があるのでできれば静電気防止加工品をチョイスしたい。



前述の腰や足首をはじめ、じっとしている時は襟周り、手首から腕、それと靴底と頭部が体温が特に奪われるポイントだ。逆に言えばそれらは活動中は余剰な熱を逃がす働きもしてくれる部分でもある。無闇と厚着をして全て完全に覆ってしまうのではなく、マフラー、手袋、帽子、カイロ、ストール、ショールなどを用意して、待機中は覆う、活動中は外すといった的確な使い方をすれば寒すぎる、暑すぎるという事態を回避できる。



夏冬を問わず、濡れても簡単には乾かず、高温環境でも低温環境でも快適性の低いジーンズはコミケットにはハッキリ不向きだ。速乾性に優れ、脚さばきのよい化繊混紡生地チノパン系が望ましい。

スカートやショートパンツ等で脚を出す場合には必ずタイツ、厚手のストッキング等を着用しよう。防寒面、紫外線対策、盗撮対策などの様々な意味合いがあるが、最大の理由は、乾燥して他の参加者のバッグやキャリアバッグ、カートなどが押し合いへし合いしている会場内では、ちょっとした接触の際に何かに引っかかって擦り傷やミズ腫れになるような傷を負う危険が高いためだ。

### ●対インフルエンザ防御!!

関東の冬は空気が乾燥していてまさにインフルエンザ天国。しかも全国から参加者が集まるコミケットは一歩間違えば爆発的感染（パンデミック）を引き起こしかねないリスクを秘めている。『風邪の親戚』などと甘く見ずに、1人1人ができるかぎりの自衛策を講じること！

体調が悪い時にはコミケットに参加してはいけない。『風邪気味かな？』と思ったら潔く今回の参加は見送ろう。もしインフルエンザであった場合、極めて多くの参加者に感染リスクを振りまくことになるし、単に風邪であった場合でも体力が低下している状態で逆に会場で感染してしまうことも十分考えられる。

同行者、サークルメンバーなどの体調が優れないようなら、直ちに参加をやめ止めさせる、会場内で体調不良に気付いたらすぐに救護所に行くか、帰宅の判断を下さなくてはならない。

特にサークルやコスプレイヤーはせっかくの機会だからとつい無理をしがちになるが、異常を感じたら早め早めに引き上げる判断を下さないと、会場を出た時点で気分の高揚効果が失せてどっと体調が悪化するようなケースもある。

もし誰かに体調について注意され、帰宅を勧められたら、素直に従うこと！

## ■参加者さんの、ぼうかん■

**内**

下着は汗を残しにくい化繊か、静電気体質の方は化繊混紡のものを着よう。透湿速乾素材のアンダーが役に立つのは夏だけではないのだ。ただし、動きまわる時のことも考えると冷え性でなければ発熱するようなタイプのものではないほうが良い。腰やお腹が露出しないよう裾の長いものを選ぶのがコツだ。きちんとしたアンダーウェアを着ておけば、むやみに厚着する必要はない。同様に足首は露出していると身体が冷え、また疲れやすくなる部分なので靴下も厚め、長めのものを。

女性陣はスカートでなくともストッキングやタイツの着用を、男性陣でもズボンの下に膝下丈ほどのロングアンダーを着用すると驚くほど防寒効果が高いため長時間待機上等の諸兄には絶対にオススメだ。

**温**

とにかく待機列に並ぼうと考えているならカイロは必須。1つを腰に貼っておけば各段に温かくなる。逆に手に持っても体は温まらないので、冷え症の人は複数個用意していこう。ただしカイロは特にトイレの際に落としやすいので要注意。水洗式のトイレでは便器の中に落としたり、自己責任で必ず拾うこと。詰まっても大惨事になるので間違ってもそのまま流さないこと。

**上**

上着はあくまで防風性能を最優先に考えよう。冷たい風によって体温が奪われることを防げれば気温そのものはそこまで極端に低くはない。それこそスキーウェアのような完全防寒よりも、むしろ軽いことと、状況に応じて脱いだり畳んでしまったり、腕まくりをしたりといった調整がしやすいものが望ましい。

薄手の防風・防水のシェルの中に保温性はあるが風を通しやすいセーター類やフリースなどの保温層を重ね着すると、待機中は着て保温性を高めつつ、活動中は脱いで風通しを良くして汗をうまく逃がせる。不精せずこまめに脱いだり着たりするのが大切だ。化繊系の重ね着は大量の静電気を発生させる場合があるのでできれば静電気防止加工品をチョイスしたい。

**補**

前述の腰や足首をはじめ、じっとしている時は襟周り、手首から腕、それと靴底と頭部が体温が特に奪われるポイントだ。逆に言えばそれらは活動中は余剰な熱を逃がす働きもしてくれる部分でもある。無闇と厚着をして全て完全に覆ってしまうのではなく、マフラー、手袋、帽子、カイロ、ストール、ショールなどを用意して、待機中は覆う、活動中は外すといった的確な使い方をすれば寒すぎる、暑すぎるという事態を回避できる。

**下**

夏冬を問わず、濡れても簡単には乾かず、高温環境でも低温環境でも快適性の低いジーンズはコミケットにはハッキリ不向きだ。速乾性に優れ、脚さばきのよい化繊混紡生地のチノパン系が望ましい。

スカートやショートパンツ等で脚を出す場合には必ずタイツ、厚手のストッキング等を着用しよう。防寒面、紫外線対策、盗撮対策などの様々な意味合いがあるが、最大の理由は、乾燥して他の参加者のバッグやキャリーバッグ、カートなどが押し合いへし合いしている会場内では、ちょっとした接触の際に何かに引っかかって擦り傷やミミズ腫れになるような傷を負う危険が高いためだ。

### ●対インフルエンザ防御!!

関東の冬は空気が乾燥していてまさにインフルエンザ天国。しかも全国から参加者が集まるコミケットは一歩間違えば爆発的感染（パンデミック）を引き起こしかねないリスクを秘めている。『風邪の親戚』などと甘く見ずに、1人1人ができるかぎりの自衛策を講じること！

体調が悪い時にはコミケットに参加してはいけない。『風邪気味かな？』と思ったら潔く今回の参加は見送ろう。もしインフルエンザであった場合、極めて多くの参加者に感染リスクを振りまくことになるし、単に風邪であった場合でも体力が低下している状態で逆に会場で感染してしまうことも十分考えられる。

同行者、サークルメンバーなどの体調が優れないようなら、直ちに参加をやめ止めさせる、会場内で体調不良に気付いたらすぐに救護所に行くか、帰宅の判断を下さなくてはならない。

特にサークルやコスプレイヤーはせっかくの機会だからとつい無理をしがちになるが、異常を感じたら早め早めに引き上げる判断を下さないと、会場を出た時点で気分の高揚効果が失せてどっと体調が悪化するようなケースもある。

もし誰かに体調について注意され、帰宅を勧められたら、素直に従うこと！

## ■参加者さんの、ぼうかん■

### 内

下着は汗を残しにくい化繊か、静電気体質の方は化繊混紡のものを着よう。透湿速乾素材のアンダーが役に立つのは夏だけではないのだ。ただし、動きまわる時のことも考えると冷え性でなければ発熱するようなタイプのものではないほうが良い。腰やお腹が露出しないよう裾の長いものを選ぶのがコツだ。きちんとしたアンダーウェアを着ておけば、むやみに厚着する必要はない。同様に足首は露出していると身体が冷え、また疲れやすくなる部分なので靴下も厚め、長めのものを。

女性陣はスカートでなくともストッキングやタイツの着用を、男性陣でもズボンの下に膝下丈ほどのロングアンダーを着用すると驚くほど防寒効果が高いので長時間待機上等の諸兄には絶対にオススメだ。

### 温

とにかく待機列に並ぼうと考えているならカイロは必須。1つを腰に貼っておけば各段に温かくなる。逆に手に持っても体は温まらないので、冷え症の人は複数個用意していこう。ただしカイロは特にトイレの際に落としやすいので要注意。水洗式のトイレでは便器の中に落としたり、自己責任で必ず捨てること。詰まって大惨事になるので間違ってもそのまま流さないこと。

### 上

上着はあくまで防風性能を最優先に考えよう。冷たい風によって体温が奪われることを防げれば気温そのものはそこまで極端に低くはない。それこそスキーウェアのような完全防寒よりも、むしろ軽いことと、状況に応じて脱いだり畳んでしまったり、腕まくりをしたりといった調整がしやすいものが望ましい。

薄手の防風・防水のシェルの中に保温性はあるが風を通しやすいセーター類やフリースなどの保温層を重ね着すると、待機中は着て保温性を高めつつ、活動中は脱いで風通しを良くして汗をうまく逃がせる。不精せずにこまめに脱いだり着たりするのが大切だ。化繊系の重ね着は大量の静電気を発生させる場合があるのでできれば静電気防止加工品をチョイスしたい。

### 補

前述の腰や足首をはじめ、じっとしている時は襟周り、手首から腕、それと鞋底と頭部が体温が特に奪われるポイントだ。逆に言えばそれらは活動中は余剰な熱を逃がす働きもしてくれる部分でもある。無闇と厚着をして全て完全に覆ってしまうのではなく、マフラー、手袋、帽子、カイロ、ストール、ショールなどを用意して、待機中は覆う、活動中は外すといった的確な使い方をすれば寒すぎる、暑すぎるという事態を回避できる。

### 下

夏冬を問わず、濡れても簡単には乾かず、高温環境でも低温環境でも快適性の低いジーンズはコミケットにはハッキリ不向きだ。速乾性に優れ、脚さばきのよい化繊混紡生地のチノパン系が望ましい。

スカートやショートパンツ等で脚を出す場合には必ずタイツ、厚手のストッキング等を着用しよう。防寒面、紫外線対策、盗撮対策などの様々な意味合いがあるが、最大の理由は、乾燥して他の参加者のバッグやキャリアバッグ、カートなどが押し合いへし合いしている会場内では、ちょっとした接触の際に何かに引っかかって擦り傷やミミズ腫れになるような傷を負う危険が高いためだ。

## ●対インフルエンザ防御!!

関東の冬は空気が乾燥していてまさにインフルエンザ天国。しかも全国から参加者が集まるコミケットは一步間違えば爆発的感染（パンデミック）を引き起こしかねないリスクを秘めている。『風邪の親戚』などと甘く見ずに、1人1人ができるかぎりの自衛策を講じること！

体調が悪い時にはコミケットに参加してはいけない。『風邪気味かな？』と思ったら潔く今回の参加は見送ろう。もしインフルエンザであった場合、極めて多くの参加者に感染リスクを振りまくことになるし、単に風邪であった場合でも体力が低下している状態で逆に会場で感染してしまうことも十分考えられる。

同行者、サークルメンバーなどの体調が優れないようなら、直ちに参加をやめ止めさせる、会場内で体調不良に気付いたらすぐに救護所に行くか、帰宅の判断を下さなくてはならない。

特にサークルやコスプレイヤーはせっかくの機会だからとつい無理をしがちになるが、異常を感じたら早め早めに引き上げる判断を下さないと、会場を出た時点で気分の高揚効果が失せてどっと体調が悪化するようなケースもある。

もし誰かに体調について注意され、帰宅を勧められたら、素直に従うこと！